

(4) 首里地域 まちづくり方針



位置と地勢

本地域は、本市東部の眺望の良い高台に位置しており、本市の最標高である弁ヶ岳から末吉の森に連なる稜線を背にした緑豊かな地域です。

成り立ち

首里の起源は、三山時代の14世紀、当時中山を支配していた察度が居城を浦添から首里に移したことが始まりとされています。その後察度王統は尚巴志によって滅ぼされ、尚巴志は三山を統一し、琉球王国が誕生します（第一尚氏）。尚巴志は、首里城の拡張整備を進めるとともに、龍潭や外苑を整備し、現在の首里の礎をつくりました。16世紀頃には、王国や国王の安全を祈願する園比屋武御嶽や、王家の墓である玉陵などが築造され、琉球独自の文化が花開きました。また、各地のグスクに居住していた按司たちが首里に集められたことで、城下町首里が発展をとげます。

首里城周辺に南風之平等、真和志之平等、西之平等の三平等が形成され、南風之平等にあった現在の鳥堀町、赤平町、崎山町は首里三箇とよばれ、豊富な水源を有していたことから、泡盛の製造が唯一許された地域でした。

戦時中は、首里城の下に陸軍第32軍司令部の地下壕が置かれたこともあり、首里城やその城下のまちは壊滅的な状況となります。戦後は、疎開していた住民も戻り、1950（昭和25）年に首里城跡に琉球大学が開学（1979（昭和54）年西原町へ移転）し、1954（昭和29）年に、首里市は那覇市と合併します。

1992（平成4）年の首里城正殿などの復元を契機に、城下町としての首里に相応しいまちづくりが本格的に進められ、龍潭通りの歴史的景観に配慮した整備や、龍潭通り沿線や首里金城町の都市景観形成地域指定による赤瓦や琉球石灰岩などを活用した特徴的な景観の形成が行われています。

2000（平成12）年には、首里城跡、園比屋武御嶽、玉陵が世界遺産登録されたほか、現在でも数多くの歴史・文化遺産を有している地域です。また、紅型、首里織、泡盛などの伝統工芸や産業が息づく地域でもあります。これらの歴史を背景として、「琉球王朝祭り 首里」の開催や獅子舞、弥勒踊り、キューナ、地バーリーなどの地域住民による文化的な活動が盛んであり、本市のみでなく沖縄県の歴史と文化の中心地となっています。

※2019（令和元）年10月31日未明、首里城正殿を含む8棟が火災により焼失・損傷した。沖縄のシンボル「首里城」の再建に向けた取り組みが進められている。

地域 特性

① 3つの世界遺産と多くの歴史・文化遺産を有しています

世界遺産首里城跡、園比屋武御嶽、玉陵をはじめ、金城町石畳、龍潭、大アカギなどの巨木、点在する樋川、井泉など、琉球王国時代を偲ばせる数多くの歴史・文化遺産を有しています。特に首里城跡には、年間 280 万人以上の観光客が訪れており、近年は、大型バスやレンタカーなどの過度な流入により、地域の生活環境に影響を及ぼしています。



▲ 世界遺産玉陵

② 低層の戸建て住宅が集まる暮らしのエリアです

地域の約 5 割が住宅用地となっており、特に低層の戸建て住宅の割合が高い地域です。金城町の石畳周辺をはじめとする歴史性のある住宅環境も魅力ですが、地域内には、幅員 4m 未満の道路も多く、魅力的なスーグワの保全と生活環境の向上の両立が課題でもあります。また、比較的規模の大きいマンションなどが幹線道路沿道や斜面に残る緑地へ建設されることも増えており、建物の高さ規制や緑地の保全の取組などが求められています。



▲ 首里金城町石畳道

③ 伝統工芸、泡盛づくり、伝統芸能が息づいています

王朝文化として花開いた琉球紅型や首里織の工房、琉球舞踊や琉球空手の道場、泡盛の製造工場などが、現在も地域内に点在し、往事の息吹を感じることができます。また、獅子舞や旗頭などは各町の伝統芸能として受け継がれ、毎年秋の「琉球王朝祭り 首里」においては、これらの伝統芸能を鑑賞することができます。

首里の城下町を形成していた龍潭通り沿道や、琉球王国時代の軍道である石畳が特徴的な首里金城町では、那覇市都市景観形成地域として古都首里の景観づくりに取り組んでいます。

④ 豊かな自然と湧き水があります

石灰岩台地に形成された首里は緑地に抱かれ、地域内の至るところで湧き水がみられます。

ワークショップなどからの市民のみなさんの声



観光客の多い地域。道路は狭いけどレンタカーが多い。地域内を走る車の交通量やスピードを抑えたいな。



車で来るよりも歩いて観光する方が楽しいと感じられるような、快適な歩行空間や回遊しやすい観光ルートにするのはどうかな。



儀保大通り（県道 28 号線）は景観もいいし、照明で演出したり花を植えたりして雰囲気を出したら歩く人が増えるかも。



首里城観光にあわせて、城下町も散策できるよう酒造所ツアーなんてパッケージもいいかも！

地元の人にとっても観光で訪れる人にとっても快適に歩ける空間は素敵ですね。「車で行きづらい」より「歩いたほうが楽しい」と言われる魅力的な首里観光にしていきたいですね。



下町の良い関係（コミュニティ）を残しつつ、若い世代の人達も住みやすい環境をつくっていききたいね。



自治公民館などでこどもの遊び場を確保したいな。



龍潭通りは、地域の住民も利用できるような施設がほしい。



公社住宅や首里劇場など地域内の老朽化した施設の建替えでは、コミュニティ機能やスーパーなど住民も集えるような機能をあわせて整備するといいかもね。

観光だけでなく、住んでいる方にとっても魅力的な城下町首里の暮らしを叶えるまちづくりを進めていきたいと思っています。



首里城を中心とした地域に残る文化財や御嶽、樋川^{ヒージャ}などの数多くの歴史・文化遺産、地形や水系などの自然環境の保全・活用を図ります。また、首里城の城下町として歴史的な環境に配慮した景観形成を進めるとともに、琉球泡盛や紅型などの琉球王国時代から受け継がれてきた伝統産業などを、まちづくりの視点から育成する環境整備を図ります。首里らしい趣と落ち着きのある住環境の形成を図るとともに、観光拠点のにぎわいを地域全体へ誘導することで、回遊性のある魅力的な歴史と文化の薫る首里のまちづくりを進めます。



交流スポット



都市公園・緑地 海・河川

※凡例は各地域共通

地域の土地利用の方針

- 歴史的な環境にふさわしい低層建築物を中心としたまちづくり
- モノレール駅を中心とした地域拠点の形成

低層住宅地区

桃原町2丁目、山川町1・2丁目などは、低層の戸建て住宅を主体とし、低層住宅地の住環境に調和した共同住宅が立地する、緑豊かな住宅地の形成を図ります。また、首里城を中心とした金城町、大中町、赤田町、崎山町などは、首里城の城下町として、樋川や御嶽など歴史的な遺産や道路の形態などの昔ながらの集落環境を保全しながら、首里城周辺の景観に配慮した低層の戸建て住宅主体の緑豊かな低密度の住宅地の形成を図ります。

低中層住宅地区

字松川などでは、低層の戸建て住宅と調和した低中層の共同住宅が共存するゆとりと落ち着きのある住宅地の形成を進めます。

地域型生活サービス地区

龍潭通りの沿道は、首里城などの歴史・文化遺産と調和した、日常の生活を支える店舗や、首里城などを訪れた観光客の市街地散策を誘導するような飲食店などが立地する土地利用を図ります。また、歴史的環境に配慮した低中層を主体とした建築物が立地する土地利用を図ります。

地域内幹線沿道地区

儀保大通り（県道28号線）、寒川通り（崎山松川線）の沿道は、暮らしの利便性を高める商業機能や業務機能と共同住宅が共存する複合用途の建物が立地する土地利用を進めます。また、首里の歴史的環境に配慮した低中層の建築物が立地する土地利用を図ります。

幹線沿道地区

第2環状線（県道82号線）の沿道は、低層部の住宅利用が抑制された沿道型の商業施設や業務施設、共同住宅などが立地し、歴史的環境に配慮した低中層の建築物が立地する土地利用を図ります。

■地域拠点としての都市機能の誘導

首里駅周辺では、生活利便性を高める、日常的な買い物、診療所、郵便局など、日常の生活を支えるサービス機能やコミュニティ活動につながる機能などの集積・充実により、地域の暮らしを支える拠点を形成し、居住環境の維持・向上を図ります。

地域の土地利用方針図



土地利用

 低層住宅地区	 地域型生活サービス地区	 都市型リゾート地区	 集落環境保全
 低中層住宅地区	 近隣型商業サービス地区	 流通・産業地区	 都市公園等
 中高層住宅地区	 商業サービス地区	 地域内幹線沿道地区	 学校等(白枠)
 住宅団地地区	 業務地区	 幹線沿道地区	 モノレール

※凡例は各地域共通

地域の交通体系の方針

- 住宅地内における安全安心で快適な交通環境の創出
- 地元客や観光客が快適に歩ける歩行空間の整備
- スーヅグーなどの魅力を活かした、歩いてまわりやすい城下町の道路整備
- モノレール駅を中心とした公共交通の利便性向上と歩行者、自転車利用環境の整備
- 多様な移動手段の利用環境の向上・充実
- 貸し切りバスの乗降場所や待機場所の適正化の推進

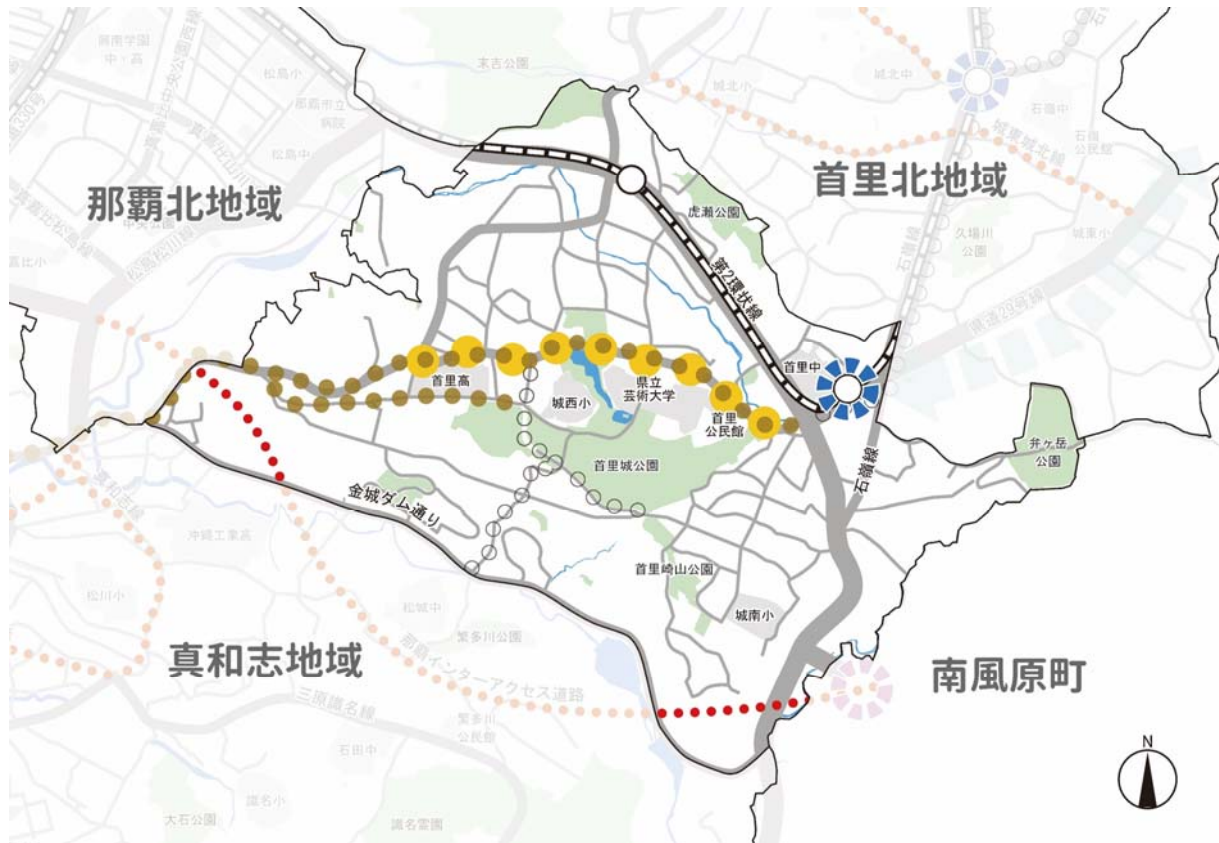
■誰もが移動しやすい公共交通ネットワークの体系方針

本地域は、モノレール首里駅や儀保駅、県道 29 号線などにおけるバス路線などの公共交通があります。首里駅においては、バスなどとの乗り換えの快適性、利便性の向上を図ります。

■路線ごとの道路体系方針

	路線名および路線位置	体 系 方 針
広域的な幹線道路	・ 第 2 環状線（県道 82 号線）	都市の骨格を形成する主要な道路であり、都心部の通過交通を分散し、都市交通の円滑化を図る、主要な道路である。背後地の低層住宅地および首里城周辺の歴史環境に配慮した景観性と防災性を高めた道路として整備を促進します。
	・ 那覇インターアクセス道路	都心部と那覇インターチェンジを結ぶ、本市の交通円滑化に寄与する重要な道路として、首里地区の歴史的環境を活かした整備を図るとともに、首里地区内の通過交通の抑制を促進します。
地域の幹線道路	・ 松川石嶺線（県道 28 号線） ・ 金城ダム通り（崎山松川線） ・ 石嶺線（鳥堀石嶺線）	地域の幹線道路として交通の障害となる駐停車を抑制し、交通の円滑化を進めるとともに、良好な歩行空間の形成を図ります。
	・ 龍潭通り（県道 29 号線）	首里城を中心とする商業観光拠点として、通過交通を抑制し、無電柱化などによる景観に配慮した歩行空間の創出を図り、首里の歴史的環境を形成する上でシンボルとなるような道路づくりを促進します。
主要な生活サービス道路	・ 山川大中線 ・ 桃原池端線 ・ 当蔵 1 号 ・ 赤平当蔵線	大中、当蔵、赤平町などの住宅地の生活基盤となる生活道路やモノレール駅へのアプローチ道となっており、安全安心で便利な歩行者中心の主要な生活サービス道路として位置づけ、整備を図ります。
	・ 県道 49 号線 ・ 県道 50 号線 ・ 真玉道（金城 2 号） ・ 首里城線（首里城公園南線）	首里城公園、県立芸大、首里高校、城西小学校、首里公民館などの公共施設を結ぶ主要な道路として、首里の歴史的環境を形成する上で地域の顔となる道路づくりを進めます。
	・ 赤田寒川線 ・ 崎山 8 号 ・ 寒川 4 号 ・ 金城 10 号 ・ 11 号 など	首里金城町、崎山町の生活基盤となる道路であり、城南小学校などの周辺道路となっていることから、歩行者に安全安心で快適な整備を図ります。
	・ 久場川 6 号 ・ 鳥堀中央線 など	鳥堀、久場川町の生活基盤となる道路であり、開邦高校や首里中学校などの周辺道路となっていることから、歩行者に安全安心で快適な整備を図ります。
	・ 古島山川線 ・ 山川 2 号 ・ 山川 7 号 など	山川町 1、2 丁目の生活基盤となる安全安心で快適な主要生活道路として位置づけ、整備を図ります。

地域の交通体系方針図



公共交通

モノレール

将来公共交通ネットワーク

公共交通軸

 鉄軌道を含む
新たな公共交通システム

 LRTなどの
基幹的公共交通システム

道路

広域的な幹線道路
 地域の幹線道路
 主要な生活サービス道路
 計画・構想道路
 トランジットモール
 歩行者優先ゾーン
 歩行者優先道路
 シンボルロード
 地域の顔となる道路

交通結節点

交通拠点
 パーク&ライド
 ライド&ライド

※凡例は各地域共通

安全安心な地域形成の方針

● 歴史的な集落の街並みの保全と創出

集落形態保全地区

首里城を中心とした金城町、大中町、赤田町、崎山町などは、石畳、石積み、道路形態などの歴史的な要素を積極的に保全再生し、その要素をまちづくりに活用することで歴史的な街並みの形成を進めます。

基盤改善地区(機能向上型)

山川町、鳥堀町などは、狭隘道路の解消やネットワークを構成する主要な生活サービス道路の改良などにより基盤の改善を図ります。

防災まちづくり

本地域は、世界遺産首里城跡を中心に多くの文化財が残り、昔ながらの道路形態が良好な景観を形成している一方で、狭隘道路により消防車両の進入が困難な地域も有しており、防災力の向上のため、消火栓や大規模開発時の防火水槽の整備などの消防水利の確保を促進します。

首里城をはじめとした観光スポットに多くの観光客が訪れる地域でもあり、災害時に観光客がスムーズに避難できるよう、地域住民や事業者の協力により、安全に避難できる仕組みづくりを進めます。また、土砂災害リスクのある首里金城町や首里崎山町では、災害リスクおよび被害軽減に向けた意識啓発を進めます。

避難場所・避難所・樋川・井泉

公園などの避難場所や小中学校などの避難所は、多様な使われ方が可能なオープンスペースの確保、耐震化やバリアフリー化を図ります。また、地域の湧水は、災害時に上水道が使えなくなった場合の飲料以外の生活に必要な水を確保するため、状況把握や保全などの取り組みを進めます。

安全安心な地域形成方針図



市街地形成

- 集落形態保全地区
- 基盤整備済地区
- 基盤改善地区
(機能向上型)
- 基盤改善地区
(面的改良型)
- 基盤改善地区
(基盤再生型)
- マチグワーエリア

防災

- 浸水リスクのあるエリア
- 土砂災害リスクのあるエリア
- 人 地域の避難場所 ※
- 人 地域の避難所 ※
- 人 台風・大雨洪水時の避難施設
- 地域の樋川・井泉

その他

- 公園・緑地
- 海・河川
- 幹線道路
- 計画・構想道路
- 市街地開発
事業区域

※凡例は各地域共通

※ 避難場所・避難所について…浸水リスクのあるエリアでは、津波・高潮・洪水時を除く。土砂災害リスクのあるエリアでは、土砂災害時を除く。

- 河川の浄化・親水化と首里の骨格を形成する緑地の保全
- 首里城下町の歴史的景観の形成
- 首里八景などの眺望景観の保全
- 石畳・井泉などの歴史・文化遺産の保全・活用・再生
- 多様な歴史・文化遺産や伝統産業施設を結ぶ歴史の散策路づくり
- 首里城を中心とした地域に残る昔ながらの集落形態や歴史・文化遺産を活かしたまちづくりの推進
- 暮らす人と訪れる人のバランスの取れた交通環境の形成

公園・広場・緑・水辺

虎瀬公園や首里崎山公園などは、アプローチ路の改善を図り、地形や地域特性を活かしたうるおいの場の創出を進めます。また、身近な公園が少ない地域では、空地などを活用した小公園や広場、ポケットパークなどの憩いの空間の創出を図ります。

虎瀬公園や弁ヶ岳、金城ダム、真嘉比川沿いなどに残る緑地は、首里城を取り囲み、地域を縁取る緑豊かな緑地であり、市街地の貴重な自然環境・景観資源として保全を図ります。

安里川や真嘉比川は水辺の軸として、水質浄化とあわせた自然化・親水化や緑化を進め、生物にやさしく、訪れる人が水辺を身近に感じることのできる親水プロムナードの創出を促進します。また、豊かな湧き水によって育まれた金城大樋川や寒水川樋川などの地域に数多く残る水辺空間は、貴重な自然環境として水源を維持するため、水辺周辺の緑地の保全を促進します。

幹線道路や主要な生活サービス道路、モノレールの桁下などは積極的に緑化を進め、水辺と緑をつなぐ市街地の緑の軸として、生物の移動空間のネットワーク化やうるおいのある歩行空間の創出を図り、四季を感じさせ、歴史的環境を演出する緑の軸の形成を推進します。

景觀・眺望

首里金城町や周辺の地域は、石畳道や石垣、屋敷林などの昔ながらの集落形態を保全するとともに、周辺エリアを含めた魅力の向上を図ります。また、特徴的な景観は暮らす人にとって誇りと愛着につながることから、今後も保存し続けるための協働による景観まちづくりに取り組みます。

高台に位置する首里城からは、^{ミイカイ}首里杜一帯や緑の稜線を望むことができ、弁ヶ岳、虎瀬公園、ニシムイ御嶽などからは、首里城を望むことができます。これら眺望点や視対象である首里の家並みなど歴史・文化景観、街並み景観、活動景観（生活風景）の保全・創出を図ります。

龍潭通りなどのシンボルロードや地域の顔となる道路は、街路樹による連続した緑陰の創出や特色ある整備を図り、歴史的な景観のイメージを形成する重要な地区として、首里城下の歴史的な街並みの保全・創出や沿道建築物の形態・意匠の誘導、屋外広告物や公共サインのデザイン誘導などにより、歴史的な環境に配慮した景観形成を図ります。

歴史・文化遺産・歴史の散策路

首里金城町の石畳、国学首里聖廟石垣などの指定文化財や、数多くの井泉や石垣などの地域に残る歴史・文化遺産は、まちづくりの要素として保全・活用を進め、歴史の散策路と一体となった歴史・文化とふれあう場の創出により、地域に暮らす人が身近なまちの良さや歴史を再発見できる仕掛けづくりを図ります。景観資源として指定されている首里金城の大アカギや県立芸大のガジュマルなど、地域に残る古木・大木は、市街地にうるおいを与えると同時に、地域の歴史を継承する貴重な資源として保全を図ります。

交流スポット

本地域には、泡盛や紅型、首里織など、琉球王国時代からの伝統的な産業が息づくとともに、養蜂などの特色ある産業も行われています。地域に生き続ける伝統産業の継承や新しい産業の育成などにより、観光・交流のスポットとしてにぎわいにつながる環境の形成を図ります。

龍潭通りの沿道は、沿道建築物の景観形成や通りのライトアップ、緑陰の確保や南国の花木による魅力的な歩行空間の形成を図り、観光客や地域に暮らす人の回遊性を高めます。また、建築物やシンボルツリー、個々の建物の灯りのコントロール、夜景が望める眺望点の確保など、新たな魅力の創出を進めます。

本地域には多くの観光スポットがあり、多くの観光客が訪れていますが、首里城周辺のスポット的な観光にとどまっていることから、観光客が地域を散策する機会を創出することで、地域に暮らす人との交流を促進します。龍潭通り沿道は、観光での散策に加え徒歩圏の生活サービス機能を有する交流スポットとして、特色ある飲食店や専門店が建ち並ぶ生活利便機能や、地域のサードプレイスとしての機能の創出を図ります。また、観光客の急激な増加による慢性的な渋滞や生活道路へのレンタカーの進入などは、流入交通の抑制、歩行者優先ゾーンの導入などにより、都市基盤の不足を補いながら、都市観光と市民生活の共存を図ります。

既存の公民館・図書館の活用により、まちづくりなどのコミュニティ活動を促進するとともに、小中学校などの公共施設は、コミュニティの拠点として積極的に開放します。また、施設のリニューアルなどの際には、交流スポットとして利用しやすい機能配置や施設整備を図ります。

暮らしと交流方針図



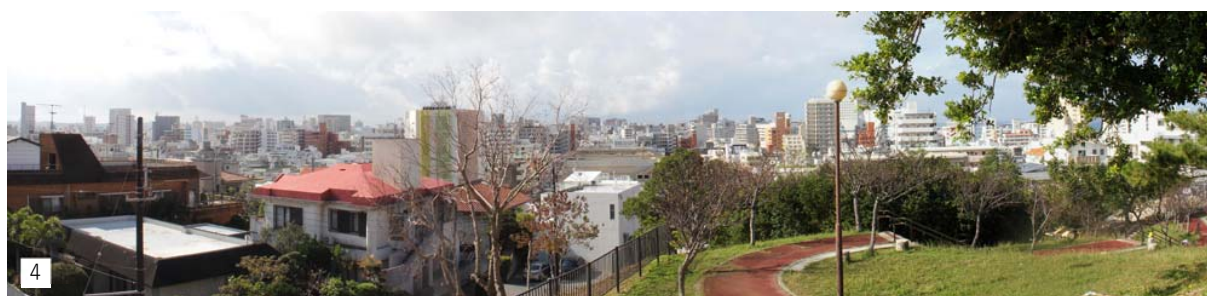
緑・水辺		歴史・景観		交流スポット	
	公園・緑地		歴史・文化遺産 (馬場道跡などの場合)		歴史文化 スポット
	自然緑地		集落景観		自然・ レクリエーション スポット
	緑の軸		都市景観形成地域		コミュニティ スポット
	水辺の軸 (河川・海)		景観資源		商業交流 スポット ・広域的な商業機能 ・駅周辺の商業機能 ・徒歩圏の生活サービス機能
	公園空白地域		シンボルロード		交通交流 スポット
			地域の顔となる道路		
			歴史の散策路		
			眺望		

※凡例は各地域共通



NAHAのまちスナップ

～眺望景観編～



1.とまりんからの眺望 2.末吉宮からの眺望 3.識名園からの眺望 4.黄金森公園からの眺望 5.海軍壕公園からの眺望